

Also available daily on the internet!!
http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Family Worship

Cell Group Guide

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポーシジョンの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.3.15-21

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポーシジョンの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

L T G Guide

23:13 しかし、忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、人々から天の御国をさえぎっているのです。自分もはいらず、はいろうとしている人々をもはいらせないのです。

23:14 「忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、やもめたちの家を食いつぶしていながら、見えのために長い祈りをするからです。ですから、あなたがたは、人一倍ひどい罰を受けます。」

23:15 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。改宗者をひとりつくるのに、海と陸とを飛び回り、改宗者ができると、その人を自分より倍も悪いゲヘナの子にするからです。

23:16 忌わしいものだ。目の見えぬ手引きども。あなたがたはこう言う。『だれでも、神殿をさして誓ったのなら、何でもなし。しかし、神殿の黄金をさして誓ったら、その誓いを果たさなければならぬ。』

23:17 愚かで、目の見えぬ人たち。黄金と、黄金を聖いものにする神殿と、どちらがたいせつなのか。

23:18 また、こう言う。『だれでも、祭壇をさして誓ったのなら、何でもなし。しかし、祭壇の上の供え物をさして誓ったら、その誓いを果たさなければならぬ。』

23:19 目の見えぬ人たち。供え物と、その供え物を聖いものにする祭壇と、どちらがたいせつなのか。

23:20 ですから、祭壇をさして誓う者は、祭壇をも、その上のすべての物をもさして誓っているのです。

23:21 また、神殿をさして誓う者は、神殿をも、その中に住まわれる方をもさして誓っているのです。

23:22 天をさして誓う者は、神の御座とそこに座しておられる方をさして誓うのです。

パリサイ人の権威や教えが、イエス様の宣教に大きな妨げとなったことでしょう。彼らの価値観は彼ら自身を守るためであり、この世での権威を保持するためのものだったからです。神の国の価値観は全く違っていました。

私たちがこの世の権威を尊重することがあるでしょう。尊敬する人、先生と呼んでいる人、また特別な経験や能力や知識を持って、教えてくれる人などは、すばらしい人々であって得るものがたくさんあるでしょう。しかし神様と同列にすることはできません。それでも人間は、神よりも人に教えを請うことが多く、そして神様と違う教えも受け入れてしまうことがあるのです。

イエス様がパリサイ人に気をつけるように、具体的に警告しておられますが、同じように人から何か影響を受けてしまって、神様の真理から離れていないかどうか考えてみましょう。または神様に聞いて頼ることを忘れていないか、第一にしないままではないか、考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



23:23 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、はっか、いのんど、クミンなどの十分の一を納めているが、律法の中ではるかに重要なもの、すなわち正義もあわれみも誠実もおろそかにしているのです。これこそしなければならぬことです。ただし、他のほうもおろそかにしてはいけません。

23:24 目の見えぬ手引きども。あなたがたは、ぶよは、こして除くが、らくだはのみこんでいます。

23:25 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、杯や皿の外側はきよめるが、その中は強奪と放縦でいっぱいです。

23:26 目の見えぬパリサイ人たち。まず、杯の内側をきよめなさい。そうすれば、外側もきよくなります。

23:27 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいのように、

23:28 あなたがたも、外側は人に正しいと見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです。

23:29 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは預言者の墓を建て、義人の記念碑を飾って、

23:30 『私たちが、先祖の時代に生きていたら、預言者たちの血を流すような仲間にはならなかっただろう。』と言います。

23:31 こうして、預言者を殺した者たちの子孫だと、自分で証言しています。

23:32 あなたがたも先祖の罪の目盛りの不足分を満たしなさい。

23:33 おまえたち蛇ども、まむしのすえども。おまえたちは、ゲヘナの刑罰をどうしてのられることができよう。

23:34 だから、わたしが預言者、知者、律法学者たちを遣わすと、おまえたちはそのうちのある者を殺し、十字架につけ、またある者を会堂でむち打ち、町から町へと迫害して行くのです。

23:35 それは、義人アベルの血からこのかた、神殿と祭壇との間で殺されたバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上で流されるすべての正しい血の報復があなたがたの上に来るためです。

23:36 まことに、あなたがたに告げます。これらの報いはみな、この時代の上に来ます。

23:37 ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。

23:38 見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。

23:39 あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に。』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。』

律法学者は民衆が守るべき律法を定め、パリサイ人はそれを守るように教えていました。しかしどれも自分たちの権威と特権を守るため、本当の神の御心からは離れたものだったのです。イエスは彼らを面と向かって非難し、神様の御心を明かにしました。

正典である聖書 66 巻は、自分の立場を守ったり、良く見せたりするためにあるものではありません。むしろみことばの前に、まだまだ不完全な自分を明かにしつつ、謙遜でありましょう。またそのような分かち合いをしましょう。

イエス様は偽善者であるパリサイ人や律法学者を非難しますが、それは個人的な感情や目的ではありません。「ああエルサレム」というように、エルサレムすなわちイスラエルの民族を愛して止まない思いから来ているのです。

どんなに厳しいことばであっても、神様の御声に耳を傾けましょう。主は愛によって語っておられるからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶17日 水曜

マタイ

24:1 イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。

24:2 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょう。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」

24:3 イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話してください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」

24:4 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。

24:5 わたしの名を名のる者が大ぜい現われ、『私こそキリストだ。』と言って、多くの人を惑わすでしょう。

24:6 また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。

24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。

24:8 しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。

24:9 そのとき、人々は、あなたがたを苦しめめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。

24:10 また、そのときは、人々がだぜいつまづき、互いに裏切り、憎み合います。



24:11 また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。

24:12 不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。

24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。

24:14 この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしかれ、それから、終わりの日が来ます。

弟子たちは見える栄光や壮大さに心を奪われませんが、何であつても神様の守りがなければ滅んでしまいます。イエス様のことは誇張ではなく、この後にローマの侵攻によって、宮の石がすべてくずされたというのは歴史的な事実です。

そのように私たちの世界は、驚くような意外さによって、いとも簡単に崩されてしまうのです。しかし、神様の真理と救いは決して損なわれることはありません。

ですからキリストの御名には力があります。そこで、神の国を崩すためにサタンは偽キリストを用います。ですから偽キリストには注意しなければなりません。また迫害やつまずきやにせ預言者が現れて、神の国を邪魔します。

私たちクリスチャンに必要なのは忍耐です。忍耐を全うするために力になるのは、真理の知識と終りの希望です。正しい信仰基準によって知識を確かなものとしましょう。教会生活をしっかりと、メッセージを聞き続けることです。また終りの時にも希望を持ちましょう。やがてお会いするイエス様を、今の生活の中でも愛することです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶18日 木曜

マタイ

24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、（読者はよく読み取るように。）

24:16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。

24:17 屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。

24:18 畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。

24:19 だが、その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。

24:20 ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。

24:21 そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。

24:22 もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます。

24:23 そのとき、『そら、キリストがここにいる。』とか、『そこにいる。』とか言う者があっても、信じてはいけません。

24:24 にせキリスト、にせ預言者たちが現われて、できれば選民をも惑わそうとして、大きなしるしや不思議なことをして見せます。

24:25 さあ、わたしは、あなたがたに前もって話しました。

24:26 だから、たとい、『そら、荒野にいらっしやる。』と言っても、飛び出して行ってはいけません。『そら、へやにいらっしやる。』



る。』と聞いても、信じてはいけません。

24:27 人の子の来るのは、いなく東から出て、西にひらめくように、ちょうどそのように来るのです。

24:28 死体のある所には、はげたかが集まります。

はげたかは死骸を食べるので、汚れた動物とされていました。罪あり汚れた私たち人間が、イエス様の十字架という”死”のもとに来るのは、まさににはげたかが死体に集まるようです。しかしそこにこそ永遠の命があり、汚れた者が赦されてきよいものとされる希望があります。またそこに終末の混乱の中にも確かな答えがあるのです。

イエス様は実際にユダヤでその後起こった悲惨な苦難を預言しておられるますが、それはまさにこの世の終わりの悲惨さの型でもあります。

多くの惑わしがありますが、私たちクリスチャンには明確な答えがあります。それが「人の子」であるイエス様であり、死体と表現されているイエス様の十字架です。

このイエス様、十字架の救いから離れないという決心を今のうちからしておきましょう。その決心にふさわしい生き方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶19日 金曜

マタイ



画を楽しみにすることさえできるのです。

24:29 だが、これらの日の苦難に続いてすぐに、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。

24:30 そのとき、人の子のしるしが天に現われます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。

24:31 人の子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます。

24:32 いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかくなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。

24:33 そのように、これらのことのすべてを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。

24:34 まことに、あなたがたに告げます。これらのことが全部起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。

24:35 この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

世の終わりの出来事が、単に社会の変革というものではなく、宇宙的な規模であることが分ります。つまり全存在が刷新されるということです。どんな人間の英知も神様のご計画と権威のもとには、全く無力であることを知る必要があります。

「この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。」という信仰、神理解が大切です。日頃からそのように神様の権威を喜びつつ生活している人は、何があっても動じることはないのです。むしろその混乱の中にあつて、神様は何をしてくださるのだろうと、そのご計

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



24:36 ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。

24:37 人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようだからです。

24:38 洪水前の日々は、ノアが箱舟にはいるその日まで、人々は、飲んだり、食べたり、めとったり、とついでりしていました。

24:39 そして、洪水が来てすべての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。

24:40 そのとき、畑にふたりいと、ひとりには取られ、ひとりには残されます。

24:41 ふたりの女が臼をひいていると、ひとりには取られ、ひとりには残されます。

24:42 だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。

24:43 しかし、このことは知っておきなさい。家の主人は、どろぼうが夜の何時に来ると知っていたら、目を見張っていたでしょうし、また、おめおめと自分の家に押し入れられはしなかったでしょう。

24:44 だから、あなたがたも用心していなさい。なぜなら、人の子は、思いがけない時に来るのですから。

24:45 主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食事をきちんと与えるような忠実な思慮深いしもべとは、いったいだれでしょうか。

24:46 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしもべは幸いです。



24:47 まことに、あなたがたに告げます。その主人は彼に自分の全財産を任せるようになります。

24:48 ところが、それが悪いしもべで、『主人はまだ帰るまい。』と心の中で思い、

24:49 その仲間を打ちたたき、酒飲みたちと飲んだり食べたりし始めていると、

24:50 そのしもべの主人は、思いがけない日の思わぬ時間に帰って来ます。

24:51 そして、彼をきびしく罰して、その報いを偽善者たちと同じにするに違いありません。しもべはそこで泣いて歯ざりしりするのはです。

私たちは今の世界が、つまり見えるものがあるままでも続くかのように錯覚しがちですが、そのようなことはありません。確実に終わってしまうのです。イエス様はそのことを実感させようと、非常にリアルな描写で終りの時の様子を語られます。

それはいつか分らないからです。そしていつイエス様が来られても良いように、備えなければならないからです。私たちの人生のすべては、神様からまかされてたもので、私たちは忠実なしもべであることが必要です。

主に忠実でありましょう。忠実でありつつ、イエス様を愛して待ち望みますよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25:1 そこで、天の御国は、たとえて言えば、それぞれがともしびを持って、花婿を出迎える十人の娘のようです。

25:2 そのうち五人は愚かで、五人は賢かった。

25:3 愚かな娘たちは、ともしびは持っていたが、油を用意しておかなかった。

25:4 賢い娘たちは、自分のともしびといっしょに、入れ物に油を入れて持っていた。

25:5 花婿が来るのが遅れたので、みな、うとうとして眠り始めた。

25:6 ところが、夜中になって、『そら、花婿だ。迎えに出よ。』と叫ぶ声がした。

25:7 娘たちは、みな起きて、自分のともしびを整えた。

25:8 ところが愚かな娘たちは、賢い娘たちに言った。『油を少し私たちに分けてください。私たちのともしびは消えそうです。』

25:9 しかし、賢い娘たちは答えて言った。『いいえ、あなたがたに分けてあげるにはとうてい足りません。それよりも店に行って、自分のをお買いなさい。』

25:10 そこで、買いに行くと、その間に花婿が来た。用意のできていた娘たちは、彼といっしょに婚礼の祝宴に行き、戸がしめられた。

25:11 そのあとで、ほかの娘たちも来て、『ご主人さま、ご主人さま。あけてください。』と言った。

25:12 しかし、彼は答えて、『確かなところ、私はあなたがたを知りません。』と言った。

25:13 だから、目をさましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないからです。

かつて再臨のイエス様をお待ちする、いわゆる再臨信仰を強調するクリスチャンは、再臨はすぐにあるという表現をすることが多いのですが、それは「見よ。わたしはすぐに来る。」という黙示録のことばから来ていると思われまふ。しかしこのたとえでは、思ったよりも遅かったという場合が語られています。つまりイエス様の再臨はいつかは分らないということです。

それよりも大切なことは、備えをしっかりとイエス様をお待ちするということです。油とは聖書では聖霊を表します。また聖霊による祈りも表していると思われまふ。そして聖霊によって生きる者の信仰の表れは、あらゆることに関係します。主イエスをお待ちする備えをしましょう。イエス様は生きておられます。単に生活習慣や信仰のあり方ではなく、日頃からイエス様と愛の交わりをしつつ、お待ちすることです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

